

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

がんゲノム医療

～がん遺伝子パネル検査と当院の取り組み～



2024.5 Vol.56

- ① 池田副院長挨拶 ② ③ ④ 特集 がんゲノム医療 ⑤ 看護部通信 COVID-19での経験が生きた私の看護師像
⑥ 地域医療連携ニュース 患者支援連携センター新体制 / 院長だより ⑦ インフォメーション 標榜科の新規開設(放射線治療科、
低侵襲外科)、広報番組放送予定、県民公開講座予定、編集後記
外来診察担当医表(別紙)



LEADER's

INTERVIEW

医療DXと 働き方改革の 節目の年に

副院長 池田安宏

2024年度は医療・介護・障害福祉報酬の同時改定に加え、医師の働き方改革への対応が連動して行われます。その中で、医療全体に関わる医療DXの推進も求められているところです。また、物価高騰や人口減少による医療人材確保難など、社会環境の変化の中で、医療の質を維持しつつ、業務効率を高める改革をすすめる節目の年になります。当院では以下のような取り組みを順次進め、患者さんへの持続可能な医療提供体制の確保とさらなる進化につなげてまいります。

オンライン資格確認

本年12月2日には現行の健康保険証の発行が終了し、マイナ保険証[※]へ移行がされます。マイナ保険証を利用することにより、医療費の節約や医療費控除申請が簡単にできるようになるとともに、過去のお薬情報や健康診断の結果も面倒な手続きなしで治療に役立てることができるようになります。また、高額療養費制度に基づき限度額を超える支払いも限度額適用認定証の発行手続きなしで免除されます。

[※]マイナバーカードをお持ちでない方は先にマイナバーカードの申請が必要です。

電子処方せん

マイナ保険証を活用することで電子処方箋が利用可能になります。過去に処方されたお薬の情報と診察時に処方されるお薬の情報を照らし合わせ飲み合わせの悪い薬がないかなど、チェックが簡単になります。また多くの医療機関・薬局をまたがって医師・歯科医師・薬剤師での情報共有ができるため事故や災害時にも安心・安全な処方を受けることができます。当院では本年10月頃を目処に利用開始予定です。

デジタルヘルステクノロジーの活用

患者さんの自己管理を支援するツールや最新のアプリを活用することで適切なケアの提供ができます。たとえば、心臓ペースメーカー植込みが行われた患者さんは、機器の調子をオンラインでモニタリングし、症状の悪化を未然に防ぐことができるようになっています。

多職種によるチーム医療の推進

医師の長時間労働や過剰な時間外勤務は医師のストレスや疲労を引き起こし医療の質へ悪影響を与える可能性があります。当院では看護師、薬剤師及び他の医療技術者の人材確保と、組織的な教育を進めることでチーム医療の取り組みを進めています。たとえば、特定看護師の人材確保と認定に係る教育支援、臨床工学技士による医師の手術支援の取り組み等を行っています。

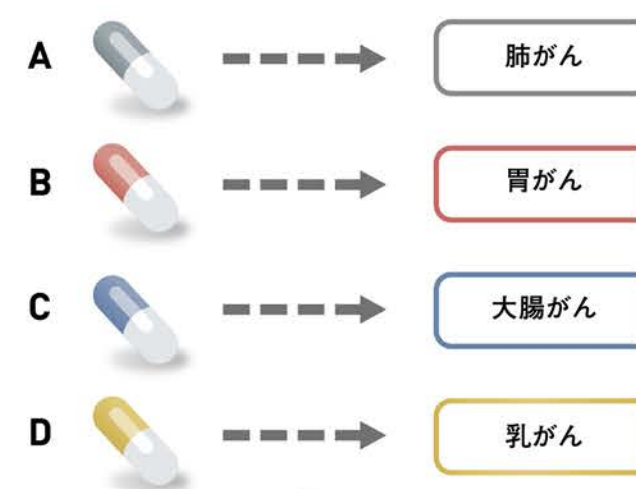
当院の持続可能な急性期医療提供体制確保の取り組みにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

特集 | がんゲノム医療

▶ がんゲノム医療を知っていますか？

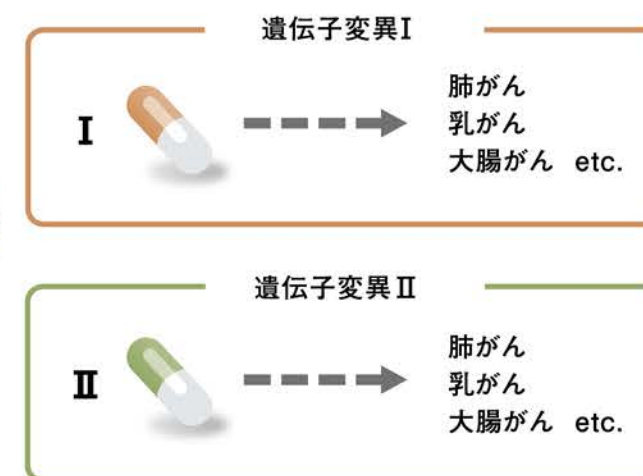
がんゲノム医療とは、患者さんによって異なるがんの遺伝子変異の情報に基づき、診断・治療する医療のことです。従来のように、がんが発生した臓器によって治療を考える(図1)のではなく、がんの原因となる遺伝子変異に基づいて薬剤を選択できるようになる(図2)ことが期待されています。

従来のがん治療 … 臓器別分類



- 図1 -

がんゲノム医療による治療 … 遺伝子変異別分類



- 図2 -

がんゲノム医療の入口となるのが、がん遺伝子パネル検査です。この検査は、がん組織や血液を用いて、がんに関連する遺伝子を同時に数百種類調べることで、そのがんに適合する分子標的薬(がん細胞の増殖に関わるタンパクを標的とした薬)を探す検査です。この検査は2019年6月から、以下の患者さんに対して保険適用となりました。

2019年6月から
保険適用

- ① 標準治療がない、または標準治療を終了した(終了見込も含む) 固形がん
- ② 原発不明がん
- ③ 希少がん

この検査は、がんゲノム医療中核拠点病院(全国13カ所)、がんゲノム医療拠点病院(全国32カ所)、がんゲノム医療連携病院(全国219カ所)で行うことができます。当院も2023年2月から山口県内で4施設目のがんゲノム医療連携病院として指定され、がん遺伝子パネル検査を実施できるようになりました。検査をご希望の方は、主治医から当院の遺伝診療科へご紹介をいただきますようお願いいたします。



特集 | がんゲノム医療

▶ がんと遺伝子変化、がん遺伝子パネル検査

私たちヒトの体は約37兆個の細胞が集まってできています。1つの細胞にはそれぞれつなげると2mもの長さになるDNAが入っており、その中に約2万個の遺伝子の情報が入っています。がん細胞の中では細胞増殖をコントロールする遺伝子の変化が複数生じています。がん遺伝子パネル検査は、がん細胞の中のがんに関する遺伝子を数百種類調べることで、がんの性質や治療に使える情報を得る検査です。現在は1人の患者さんにつき1回のみ保険適用で行うことができます。

血液10～20mLで、がんの原因遺伝子を調べることができる検査もあるため、今後検査費用が下がっていけば、将来的には、がんの診断や再発の有無を調べるための検査になると期待されています。

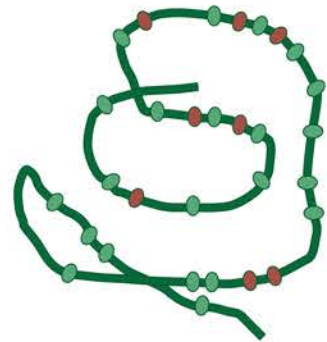
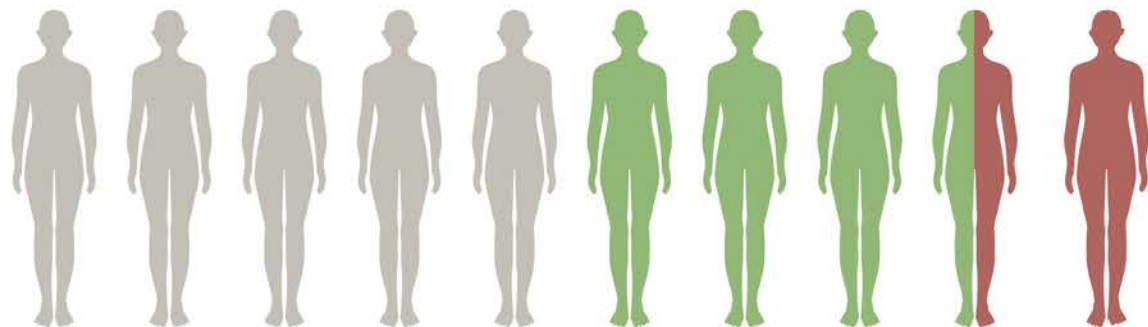


図3 細胞の中にある2mのDNA、
点在するがん関連遺伝子(赤丸)の模式図

▶ がん遺伝子パネル検査は発展途上

この検査でがんの原因となる遺伝子変化が分かるのは約50%で、効く薬が分かるのは約10～15%です(図4)。さらに、効く薬が保険適用の薬である確率は2～3%とまだまだ少ないのが現状です。これは遺伝子の変化に対応した薬の開発がまだ発展途上であるためです。



- ◎ 治療に関する遺伝子異常が見つかる可能性は約50%
- ◎ 遺伝子異常にあった治療薬が投与される割合は約10～15%

- 図4 -

▶ 検査結果が分かるまでには時間がかかる

遺伝子の変化ががんの原因になっているのかどうかを調べるのには時間がかかります。対応する薬があるかどうか、治療中の薬があるかどうか、遺伝性腫瘍の原因となりえる遺伝子の変化がないか、エキスパートパネルという専門家会議を行ってから結果をお返しするため、検査結果をお伝えするまでに6～8週間かかります。

▶ 気になる検査費用

がん遺伝子パネル検査の費用は高額です(表1)。高額療養費制度が適用となりますので、年齢や所得に応じて定められた上限額を超えての支払いはありません。

項目	費用	3割負担	2割負担	1割負担
検査提出	440,000円	132,000円	88,000円	44,000円
結果説明	120,000円	36,000円	24,000円	12,000円

- 表1 -

▶ がんのゲノム情報を活用するための情報集約

高額な費用をかけて得た遺伝情報を将来のがん患者さんへ活かすため、保険適用で行われたがん遺伝子パネル検査の結果は患者さんの同意を得た上で国内のがんゲノム情報管理センター(C-CAT)へ集められ、がんの研究や薬の開発に二次利用されています。

▶ がん遺伝子パネル検査で遺伝性腫瘍が分かることもある

がんに関連する遺伝子を調べると、遺伝性のがんの原因となりえる遺伝子の変化が分かることがあります。検査を行う前にはご家族の情報を聞かせていただき、遺伝性のがんについてもお話しします。また、遺伝性のがんの原因となりえる遺伝子の変化が分かった場合、希望される方には追加で血液検査を行い、がん細胞以外にもある遺伝子の変化なのかを調べます。遺伝について知ることは怖いと思われる方もおられると思いますが、ご家族がどのようながんにつけいたら良いのか分かったら、定期的な検診などの対策を行うことができますので、知り得た情報を子孫に活かすこともできます。

▶ がん遺伝子パネル検査にかかわるスタッフ

当院では、がん遺伝子パネル検査に提出する検体の品質を管理し、患者さんやご家族に丁寧に遺伝カウンセリングを行い、適合する薬の情報を最大限に活かすため、主治医と共に、病理医師、認定病理検査技師、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー®、薬剤師、がん専門相談員、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が協力して検査にあたっています。治療が難しい



遺伝カウンセリング



認定遺伝カウンセラー®

がん患者さんのよりよい治療選択にお役に立てるよう、日々努力しています。

がん遺伝子パネル検査を受検希望の方へ



遺伝診療科部長
讃井 裕美
(さない ひろみ)

がん遺伝子パネル検査を受けるためには、がんに関する詳細な情報(病名、組織診断名、3年以内の手術または生検組織があればパラフィンブロックとHE染色スライド標本、これまで使用した薬物療法の種類・期間・最大効果・中止理由・G3以上の副作用有無)が必要です。主治医より当院の遺伝診療科へ紹介状を作成の上、地域医療連携室へお申し込みください。詳細は当院ホームページ(<https://www.ymgph.jp/>)中の遺伝診療科、院外紹介:がん遺伝子パネル検査の項目をご覧ください。

【専門分野】産科婦人科全般 / 臨床遺伝

【資格】日本産科婦人科学会 産科婦人科専門医
日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会 臨床遺伝専門医
日本遺伝性腫瘍学会 遺伝性腫瘍専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医
日本産科婦人科遺伝診療学会 認定者(周産期)
日本医師会 認定産業医



1 当院ホームページより
遺伝診療科をクリック



2 院外紹介:がん遺伝子パネル検査
をクリック



看護部
通信COVID-19での経験が生きた
私の看護師像感染対策室・感染管理認定看護師
山田 恭子

私が感染対策を強く意識したのは、2019年に発生した新型コロナウイルス感染症に対応するようになってからです。当時はHCUで勤務していましたが、当院でコロナ患者の受入れを行うため感染症センターへ異動することとなりました。以降2023年5月8日に5類へ移行となるまでの間、感染症センターで人工呼吸器管理を要する重症者や妊婦など、多くの新型コロナウイルス感染症患者の対応を行ってきました。

患者の受入れを開始した当初は、患者対応を行うスタッフの防護や、周囲の環境整備、また家族面会の方法など多くのことが手探りの状態でした。その時に感染管理認定看護師に助言を頂いて、患者さんが安心して療養でき、かつスタッフも安全に患者対応ができる環境作りを行うことができました。

また私自身DMAT隊員でもあるため、病院外の施設クラスターが発生した際には実際に施設へ行くことができました。そこで陽性者の状態観察や施設内のゾーニングなどについて、認定看護師と共に、施設にとってより良い方法は何かを考えることもありました。

コロナ禍の3年あまりの間に院内外で経験したことから、感染症から患者やその家族、さらに医療従事者を守るため、感染対策に関する専門的な知識が必要であると考え、私自身も感染管理認定看護師を目指したいと思いました。感染症から身を守るためには、正しい対応を知った上で実践する必要があります。病原体は目に見えないため、不必要に恐れるあまり過剰な対応となってしまう一方で、対策がおろそかになってしまう事もあります。

認定看護師となりまだ日は浅いですが、今年度から感染対策室勤務となったことを契機に、病院の感染対策について現状をしっかりと把握し、課題を見出していききたいと思います。そして明らかになった課題をもとに、病院全体で感染対策への意識の向上を図れるよう関わっていききたいと思います。また、保健所をはじめ地域の医療機関や施設と連携をとり、感染対策が十分に機能するよう積極的に取り組んでいきます。



2024年度

患者支援連携センター
新体制

2024年度、患者支援連携センターの新体制が始まりました。
新しい職員配置は次のとおりです。どうぞよろしくお願いいたします。

担当・責任者	室 員	連絡先
① 地域医療連携室 室長 田島	室次長 秋山 (前方連携) MSW 石崎 看護師 貞光、吉山 (後方連携) MSW 池田、内司、齋藤、野村、道中、 佐々野、福田、永妻 看護師 岸田、土井	(前方連携) TEL 0835-22-5355 FAX 0835-22-5184 (後方連携) TEL 0835-22-5145 FAX 0835-22-5745
② 医療相談室 室長 末継	室次長 水野(②③④兼務) MSW 今徳(②③④兼務) 中川(②③④兼務)	TEL 0835-28-8127 FAX 0835-22-5745
③ がん相談支援センター 室長 國廣	PSW 渡邊(②③④兼務) 保健師 秋重(②④兼務) 公認心理師 坂本(④)	TEL 0835-28-7856 FAX 0835-22-5745
④ 認知症疾患医療センター 室長 末継		
⑤ 入退院支援センター 副センター長 村上	看護師 近棟、伊藤、村田、中村、田嶋、 石田、高橋、三好、松野	TEL 0835-22-4411 (病院代表)

着任のご挨拶

がん相談
支援センター
室長 國廣 千枝

この4月より、がん相談支援センターに着任しました保健師です。支援を必要とする人に、必要な情報を届け支援につながるようなことができるよう、様々な方と協働し努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室
(前方連携)
看護師 貞光 佐起里

4月より地域医療連携室で勤務することとなりました。外来・病棟看護師、保健師、連携室看護師としての経験を活かし、地域の医療機関と連携し円滑な受診の受け入れを行い、又病院の窓口として頼られる存在になれるよう日々精進していききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室
(後方連携)
社会福祉士 永妻 咲音

4月から地域医療連携室に配属となりました。大学を卒業して初めての勤務で不慣れなことも多いですが、患者さんやそのご家族の希望する生活の実現に貢献できるように努めて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

院長
だより

今年は寒さの戻りで桜の開花期が4月初旬に遅れたが、燕たちはそれに先立って3月20日には当院に戻ってきてくれた。院長室の窓辺に飛来し立ち寄りの挨拶を済ませた後は、晴れた空を飛び回り、カップルづくりに大忙しだ。古来、燕は幸運の象徴とされており、当院の病院経営を護って欲しいとその思いを伝えた。

本年4月から、「腫瘍センター」と「手術支援ロボットセンター」を立ち上げた。数年後には、多くの若い外科医が活躍できるしっかりとしたセンターに成長していることを期待している。



武藤 正彦



○放射線治療科について(2024年4月)

放射線治療は、手術、化学療法とともに集学的治療の1つであり、がん治療の中で重要な役割を担っています。当院における放射線治療の診療体制では、RALS(高線量率腔内照射装置)に加え、2022年10月よりIMRT(強度変調放射線治療)を開始しました。

放射線治療分野の領域は、各種核医学の導入など、今後も一層の専門化が進むことが見込まれることから、新たに設置し、診療体制の一層の強化を図りました。

○低侵襲外科について(2024年4月)

近年、医療技術と医療機器の進歩に伴い、より低侵襲な治療方法が試みられるようになり、特に外科領域では鏡視下手術が一般的になっています。当院でも、鏡視下手術は年々増加しており、2023年9月には、低侵襲で患者さんの術後の負担軽減が期待されるロボット支援下手術機器「ダビンチ Xi」を導入しました。今後、当院における低侵襲な外科的治療の重要性が一層増大することが想定されています。



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出演
7月6日(土) 18:55~19:00 7月10日(水) 16:00頃~	安心して臨める人工ひざ関節	整形外科 吉田 紘二医師
8月3日(土) 18:55~19:00 8月7日(水) 16:00頃~	ロボット支援手術による前立腺がん治療	泌尿器科 松本 洋明医師

2024年度 県民公開講座 開催予定 受講料無料

開催日時	テーマ	出演	開催方法
7月20日(土) 14:00~15:00	認知症疾患治療薬の対応	脳神経内科 福迫 俊弘医師	オンライン
9月28日(土) 14:00~15:00	てんかん	脳神経外科 藤井 正美医師	ハイブリッド 会場(集合型) 当院2階 大会議室
10月19日(土) 14:00~15:00	低侵襲治療(ロボット手術)	低侵襲外科 原田 栄二郎医師	
12月7日(土) 14:00~15:00	がんゲノム医療	遺伝診療科 讃井 裕美医師	オンライン

◎今年度の県民公開講座は、「従来の集合型とWeb参加型のハイブリッド式」または「オンライン」での開催予定です。日程により開催方法が異なりますのでお気を付けください。

編集後記

私

たちの生活において、がんは多くの人々にとって大きな不安の源となっています。この度の広報誌では、がん遺伝子パネル検査という、がん治療の最前線に焦点を当てました。まだまだ発展途上の分野ですが、どのようにして患者さん一人ひとりに合わせた治療を可能にするのか、その可能性について紹介しました。(総務課Y.N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgph.jp/>